

24. 防災マップの重要性と活かすための知恵とは？

行政が発行している防災マップとハザードマップはいずれも防災・減災の行動には確認すべきものとされています。しかし、両方をあわせて「防災マップ」と呼ぶこともあります。ここでは、それぞれについて考えます。

ハザードマップは、いわゆる災害予測図と呼ばれ、災害の種別につくられます。わが国の自然災害は地震、津波、土砂災害、洪水、浸水、液状化など多岐にわたり、毎年どこかで災害が発生しています。私たちの祖先も程度の差はあるものの、さまざまな災害を乗り越えてきました。この経験から、災害がいつ来るのか？という時間の予測は難しいですが、どこで起こりやすいかは、多数の研究者のおかげである程度想定がつくようになりました。これらを集大成したものがハザードマップです。自然災害の種類に応じてハザードマップを作っているのも、上に述べた災害の種類の数だけ、各自治体でハザードマップが整備され、公開されています。私たちは、このハザードマップを活かして、自分の命、家族の命を守ることができます。そのためには、ハザードマップを読みこなすことが必要です。ハザードマップはある前提条件の下で作られていることに注意が必要で、この条件以上の場合、例えば降水量が予想をはるかに超えた時には、想定されている浸水範囲よりも広く、深くなる可能性があります。前提条件の設定は、既往最大が採用されることが多く、これまでにない規模のものがあれば当然、想定以上の被害が出ますので、それを考慮することが利用上の注意点になります。

防災マップは避難場所や公共施設などを示した地図で、災害の種別は問いません。しかし、水災害と地震では避難場所に要求される要素が異なります。水が集まりやすい場所は、浸水、洪水の避難場所には使えません。地震のときは広い場所で上からモノが落ちてこないところが良いでしょう。したがって、その時になって慌てて避難場所へ行くよりは、事前に避難場所、避難所を確認しておくことが大事です。

ハザードマップ、防災マップを上手に利用しながら、災害の種類と避難場所、避難所、避難経路の設定を事前の準備として食料や水の備蓄と一緒にマップにまとめておくことが大事だと思います。しかし、地域特有の地形や地盤状況、過去の災害の様子などの地域情報はハザードマップでは縮尺の関係でなかなか表示しきれません。「地域の防災マップ」として地域情報をベースに、避難場所、避難所、避難経路も考慮した自分たちのためのマップ（マイマップ）を作って活用すると地域に役立つ防災マップができます。

大事なことは、災害のイメージと避難のイメージです。どのような災害が起きやすいのか、過去に起きた災害はどこで、どのようにして発生し、どのような被害が出たのか。避難場所や避難所は想定されている災害に対して安全か、そこまでの経路は夜間、雨の中でも行くことが可能か、車での移動は可能か、渋滞した場合のう回路はどうするかなど、事前のシミュレーションをして、家族の安全を確保するために「防災マップ」を作り、マイタイムラインに発展させておくこともおすすめです。

(T.K.)